



芦安中学校だより

第 8 号

校長 石原敬彦

2018. 1. 25

平成 30 年 1 月 9 日、三学期が始まりました。

全校で力を合わせて最高の学期にしていけます！

17 日間の冬休みが終わり、三学期が始まりました。始業式では、各学年の代表から新しい年の始まりにふさわしい力強い決意表明がありました。私からは「未来に向かって、学び続ける人になってほしい」という話をさせていただきました。3 学期は 1・2 年生の授業日数が 52 日、卒業式を控えた 3 年生は 45 日と大変短い学期となります。全校で「有終の美」を飾ることができるように、生徒と職員とが丸となって一日一日を大切に進んでいきたいと思ひます。3 学期もよろしくお願い申し上げます。



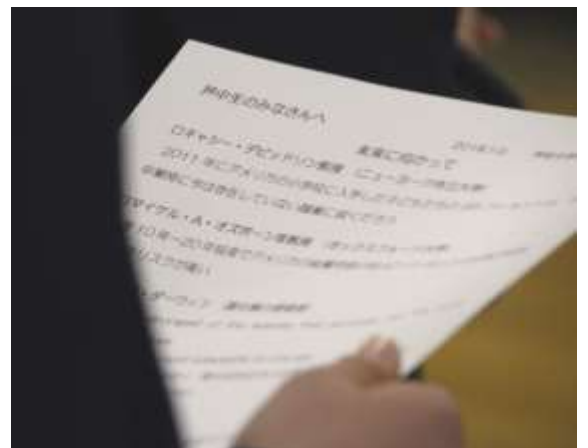
芦安中の校庭で 1 月 22 日昼・23 日朝 この冬初めての本格的な雪となりました。

私の願い・・・未来に向かって・変化に対応できるように・学び続ける人に

始業式では次の 3 つの言葉を紹介しました。

- 「2011 年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65 パーセントは、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」 キャシー・デビッドソン教授（ニューヨーク市立大学）
- 「今後 10 年～20 年程度でアメリカの総雇用者の約 47 パーセントの仕事が自動化されるリスクが高い」 マイケル・A・オズボーン准教授（オックスフォード大学）
- 「最も強いものが生き残るのではなく、最も知的なものが生き残るのでもない。変化に最も対応できるものが生き残るのだ。」 チャールズ・ダーウィン（進化論の提唱者）

ちょうど現 1 年生が「2011 年に小学校に入学した子どもたち」になります。事実、過去十年を振り返ってみただけでも新しい職業が次々と出てきていますし、今までは人がやっていた仕事を機械やロボットが代わりにやることも珍しくなくなりました。時代は大きく変化しており、これからの子どもたちはその中を生き抜いていかなければなりません。そのためには「学び続けること」が重要になります。ダーウィンの言葉にある「変化に対応する力」は「学ぶ」ことによって培われるからです。芦安中の生徒には「生涯学び続ける人」に、「探究的で創造的な学び手」として育ててほしいと私は願っています。



日々の授業の中で大切にしたいこと⇒ 学ぶための方法 = 学び合いの作法

一時間一時間の授業を大切にして「確かな学力」をつけると同時に、以下の学ぶための方法＝「学び合いの作法」もしっかり体得してほしいと話しました。そのためにはまず、一生懸命考えたり、取り組んだりしてもわからないことがあった時、「自分は真剣に取り組んでいるけれどもわからない」と友だちや先生に言えるようになる必要があります。従来の授業では、「誰よりも早く正解を言える生徒」が「優秀な生徒」で、教師もそういう生徒が正解を言うと、そのまま授業を次に進めることが多かったと思います。そういう授業の中では、生徒は「わからないことは恥ずかしいこと」「わからないとばかにされる」と考えがちで、わかったふりをしたり、わからないことを気づかれないように隠そうとしたりしがちでした。

芦安中では、現在、生徒の「わからない」を大切にし、それを文部科学省の推奨している「主体的で対話的で深い学び」つなげていくことに取り組んでいます。そのためには、生徒同士、生徒と教員の関係性もより良いものに育てていく必要があります。「聴き合える」関係性、友だちや教師に「わからないので、どうやったらいいか教えてください」と安心して言える関係性、「自立するために依存できる」関係性、また「困っている友だちをばかにしないで、要請に誠実に応える」関係性です。そして、私たち教師もそれを日々の授業の中で実現できるよう今後も校内研究を中心にして授業改革に取り組んでいきます。



平成30年1月1日 午前6時
新聞配達出発式の後 撮影
飯野地区からの富士山

「わからないこと」をそのままにしない

⇒「わからないこと」があるから次に進むことができる

「わからないこと」は恥ずかしいことではなく次への大切なステップ

- ・「わからない」と言える人になる
- ・「どうやればいい?」と他者に援助を求めることができるようになる
- ・他者から援助を求められたら、精一杯応えられる人になる

友だちに自分の言葉で教えることで理解が確かになり記憶にも強く残る

芦安中では、日々の授業の中に「学び合い」を取り入れ、ペアやグループによる協同学習の場面を大切にしています。下はアメリカで行われた調査結果です。この調査では学び合いの中でわからないことを訊き合い、支援し合うことで理解が深まり、記憶も定着することが報告されています。「わからない人に教えてあげる」ことで教えている本人も力がつくのです。同時にそこには「暖かい人間関係」も生まれます。しめくくりの3学期、「学び合い」をさらに実りあるものに進化させていきます。



平成30年1月4日
中央市浅原橋付近で撮影
北岳と月

学んだことがどのくらい記憶に残るか アメリカ国立研修研究所が調査

聞いて学んだことは	100%のうちの	5%	が記憶に残る
読んで学んだことは	100%のうちの	10%	が記憶に残る
聞いて 見て 学んだことは	100%のうちの	20%	が記憶に残る
実演を見て 学んだことは	100%のうちの	30%	が記憶に残る
話し合いをしながら学んだことは	100%のうちの	50%	が記憶に残る
自分でやりながら(体験して)学んだことは	100%のうちの	75%	が記憶に残る
ほかの人に自分の言葉で教えてあげながら学んだことは			

・・・100%のうちの90%が記憶に残る

